

Galaxis

# 溺れかけた兄妹

氏名 〱

〱

## 溺れかけた兄妹 1

土用波どようなみという高い波が風もないのに海岸に打寄うちよせる頃ころになると、海水浴かいすいよくに来ている都みやこの人たちも段々別荘をしめて帰ってゆくようになります。今までは海岸の砂の上にも水の中にも、朝から晩まで、沢山の人が集って来て、砂山からでも見ていると、あんなに①大勢な人間がいたい何所どこから出て来たのだろうと不思議に思えるほどですが、九月にはいつてから三日目になるその日には、見わたすかぎり砂浜の何所にも人っ子一人いませんでした。

私わたしの友達ともだちのMと私と妹とは②お名残なごりだといって海水浴にゆくことにしました。お婆様おばあさまが波が荒くなって来るから行かない方がよくはないかと仰おっしゃ有ったのですけれども、こんなにお天気はいいし、風はなしするから大丈夫だといって仰有おっしゃることを聞かずに出かけました。

丁度昼少し過ぎで、上天気で、空には雲一つありませんでした。昼間でも③草の中にはもう虫の音ねがしていましたが、それでも砂は熱くって、裸足はだしだと時々草の上に駈かけ上あがらなければいけないほどでした。Mはタオルを頭からかぶってどんどん飛んで行きました。私は麦稈帽子むぎわらぼうしを被かぶった妹の手を引いてあとから駈かけました。少しでも早く海の中につかりたいので三人は氣息いきを切きって急いそいだのです。

紆波うねりといっていますね、その波がうっていました。ちやぶりちやぶりと小さな波が波打際なみうちぎわでくだけるのではなく、少し沖の方に細長い小山のような波が出来て、それが陸の方を向いて段々押寄おしよせて来ると、やがてその小山のてっぺんが尖とがって来て、ざぶりと大きな音をたてて一度に崩れかかるのです。そうすると暫しばらく間まをおいてまたあとの波が小山のように打寄うちよせて来ます。そして崩れた波はひどい勢いで砂の上に這はい上あがって、そこら中じゆうを白い泡で敷きつめたようにしてしまふのです。三人はそうした波の様子を見ると少し気味悪くも思いました。(4)折角せつかくそこまで来ていながら、そのまま引返ひきかえすのはどうしてもいやでした。で、妹に帽子を脱ぬがせて、それを砂の上に仰向あおむけにおいて、衣物きものやタオルを⑤その中に丸めこむと⑥私たち三人は手をつなぎ合せて水の中にはいつてゆきました。

問一 ― ①とありますが、「大勢な人間」はどこから来ましたか。文中から探し、書きぬきなさい。

問二 ― ②とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア これで海水浴もおしまいだと思おうと心残りだから、ということ。

イ 砂浜に人っ子一人いないのはめったにない機会だから、ということ。

ウ 天気がいい上に風もなく、海水浴にはぴったりの日だから、ということ。

問三 ― ③とありますが、この部分から感じられる季節はいつですか。漢字一字で答えなさい。

問四 ( 4 ) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ やはり ウ けれども

問五 ― ⑤とありますが、何の中ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 帽子 イ 砂 ウ 水

問六 ― ⑥とありますが、「私」の他にはだれのことですか。あてはまる人物を文中から探し、全員を書きぬきなさい。

「ひきがしどいね」

とMがいました。本当にその通りでした。ひきとは水が沖の方に退いて行く時の力のことで、それがその日は大変強いように私たちは思ったのです。 踝くるぶし くらいまでより水の来ない所に立っていても、その水が退いてゆく時には（1）急な河の流れのようで、足の下砂がどろんどろん掘れるものですから、（2）していると倒れそうになる位でした。その水の沖の方に動くのを見てみると眼めがふらふらしました。けれどもそれが私たちには面白くってならなかったのです。足の裏をくすむるように砂が掘れて足がどろんどろん深く埋うずまってゆくのがこの上なく面白かったのです。三人は手をつないだまま少しづつ深い方にはいつてゆきました。沖の方を向いて立っていると、③膝ひざの所で足がくの字に曲りそうになります。陸の方を向いていると向脛むこうすねにあたる水が痛い位でした。両足を揃そろえて真直まっすぐに立ったままどっちにも倒れないのを勝かちにしたり、片足で立ちっこをして見たりして、三人は面白がって人魚のように跳ね廻まわりました。その中にMが膝ひざぐらい位の深さの所まで行って見ました。そうすると紆波うねりが来る度たびごとにMは脊延せのびをしなければならぬほどでした。それがまた面白そうなので私たちも段々深味ふかみに進んでゆきました。そして私たちはとうとう波のない時には腰位まで水につかるほどの深味に出してしまいました。そこまで行くと波が来たらただ立っていたままでは追付おっつけきません。どうしてもふわりと浮あがき上あがらなければ水を吞のませられてしまうのです。

ふわりと浮上うきあがると私たちは大変高い所に来たように思いました。波が行ってしまうので地面に足をつけると海岸の方を見ても海岸は見えずに波の脊中せちゆうだけが見えるのでした。その中にその波がざぶんとくだけます。波打際なみうちぎわが一面めんに白くなって、いきなり砂山や妹の帽子などが手に取るように見えます。それがまたこの上なく面白かったです。私たち三人は土用波どようなみがあぶないということも何も忘れてしまつて波越なみこしの遊びを続けさまにやっていました。

「あら④大きな波が来てよ」

と沖の方を見ていた妹が少し怖こわそうな声でこういきなりいきましたので、⑤私たちも思わずその方を見ると、妹の言葉通りに、これまでのとはかけはなれて大きな波が、両手をひろげるような恰好かっこうで押寄せて来るのでした。泳ぎの上手なMも少し気味悪そうに陸の方を向いていくらかでも浅い所まで遁にげようとした位でした。⑥私たちはいうまでもありません。腰から上をのめるように前に出して、両手をまたその前に突出つきだして泳ぐような恰好をしながら歩こうとしたのですが、何しろひきがひどいので、足を上げることが前にやることも思うようには出来ません。私たちはまるで夢の中で怖い奴やつに追いかけられている時のような気がしました。

問一 ( 1 ) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア やがて    イ まるで    ウ すでに

問二 ( 2 ) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア すつかり    イ がつかり    ウ うつかり

問三 —— ③とありますが、なぜこのようになるのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ずっと海につかっていたので疲れているから。  
イ 海水が沖の方にひいていく力が強かったから。  
ウ わざと膝をくの字に曲げてふざけているから。

問四 —— ④とありますが、これを言いかえた表現としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 大きな波が来ているわよ。  
イ 大きな波が来てほしいね。  
ウ 大きな波は来ないはずよ。

問五 —— ⑤とありますが、「私」の他にはだれのことですか。あてはまる人物を文中から探し、書きぬきなさい。

問六 —— ⑥とありますが、「私」の他にはだれのことですか。あてはまる人物を文中から探し、書きぬきなさい。

溺れかけた兄妹3

後うしろから押寄せて来る波は私たちが浅い所まで行くのを待っていてはくれません。見る見る大きく近くなつて来て、そのてっぺんにはちらりちらりと白い泡がくだけ始めました。Mは後うしろから大声をあげて、

「そんなにそっちへ行くと駄目だよ、波がくだけると捲まきこまれるよ。今の中うちに波を越す方がいいよ」

といいました。そういわれればそうです。私と妹とは立止たちどまって仕方なく波の来るのを待っていました。高い波が屏風びょうぶを立てつらねたように押寄せて来ました。私たち三人は丁度具合よくくだけない中に波の脊を越すことが出来ました。私たちは体をもまれるように感じ①ながらもうまくその大波をやりすごすことだけは出来たのでした。三人はようやく安心して泳ぎ②ながら顔を見合せてにこにこしました。そして波が行ってしまうと三人③ながら泳ぎをやめてもとのように底の砂の上に立とうとしました。

(4) どうでしょう、私たちは泳ぎをやめると一しよに、三人ながらずぼりと水の中に潜くぐってしまいました。水の中に潜つても足は砂にはつかないのです。私たちは驚きました。慌あわてました。そして一生懸命にめんかきをして、ようやく水の上に顔だけ出すことが出来ました。その時私たち三人が互たがいに見合せた⑤眼といたら、顔といたらありません。⑥顔は真青まっさおでした。眼は飛び出しそうに見開いていました。今の波一つでどこか深い所に流されたのだということとを私たちはいい合わさなくても知ることが出来たのです。いい合わさなくても私たちは陸の方を眼がけて泳げるだけ泳がなければならないということがわかったのです。

三人は黙ったままで体を横にして泳ぎはじめました。(7) ⑧私たちにどれほどの力があつたかを考えて見て下さい。Mは十四でした。私は十三でした。妹は十一でした。Mは毎年まいねん学校の水泳部に行っていたので、とにかくあたり前に泳ぐことを知っていましたが、私は横のし泳ぎを少しと、水の上に仰向けあおむに浮くことを覚えたばかりですし、妹はようやく板を離れて二、三間泳げんぐことが出来るだけなのです。

問一 ― ①、②、③の「ながら」と意味が同じものを、ア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 携帯電話を見ながら歩くのは危険だ。

イ 真実を知っていながら黙っていた。

ウ 彼女は生まれながらの音楽家だ。

エ 親子ながら金メダルを取る。

問二 ( 4 ) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア ところが   イ さて   ウ それとも

問三 ― ⑤とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 眼と言ったことも顔と言ったこともない、ということ。

イ 眼も顔もたとえようがないほどひどい、ということ。

ウ 眼を見ても顔を見ても何も言えない、ということ。

問四 ― ⑥とありますが、このときの気持ちとしてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 喜び   イ くやしき   ウ 恐怖

問五 ( 7 ) にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア では   イ だから   ウ けれども

問六 ― ⑧とありますが、この表現はということが言いたいのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 私たちがどれほど無力であったかを想像してほしい、ということ。

イ 私たちがどれほど泳ぎが上手であるかを知ってほしい、ということ。

ウ 私たちが何歳になっているかを改めて伝えておきたい、ということ。

御覧なさい私たちは見る見る沖の方へ沖の方へと流されているのです。私は頭を半分水の中につけて横のしでおよぎながら時々頭を上げて見ると、その度ごとに妹は沖の方へと私から離れてゆき、友達のMはまた岸の方へと私から離れて行って、暫らくの後は三人はようやく声ごとく位お互に離ればなれになってしまいました。そして波が来るたんびに私は妹を見失ったりMを見失ったりしました。私の顔が見えると妹は後の方から①あらん限りの声をしぼって「兄さん来てよ……もう沈む……苦しい」

と呼びかけるのです。実際妹は鼻の所位まで水に沈みながら声を出そうとするのですから、その度ごとに水を呑むと見えて真蒼な苦しそうな顔をして②私を睨みつけるように見えます。私も前に泳ぎながら心は後にばかり引かれました。幾度も妹のいる方へ泳いで行こうかと思いましたが、けれども私は悪い人間だったと見えて、こうなると自分の命が助かりたかったのです。妹の所へ行けば、二人とも一緒に沖に流されて命がないのは知れ切っていました。私はそれが恐ろしかったのです。何しろ早く岸について漁夫にでも助けに行ってもらおう外はないと思いましたが。今から思うとそれは③ずるい考えだったようです。

でもとにかくそう思うと私はもう後も向かずに無我夢中で岸の方を向いて泳ぎ出しました。力が無くなりそうになると仰向に水の上に臥て暫らく氣息をつきました。それでも岸は少しずつ近づいて来るようでした。一生懸命に……一生懸命に……、そして立泳ぎのようになって足を砂につけて見ようとしたら、またずぶりと頭まで潜ってしまいました。私は慌てました。そしてまた一生懸命で泳ぎ出しました。

立って見たら水が膝の所位しかない所まで泳いで来ていたのはそれからよほどたったのことでした。④ほっと安心したと思うと、もう夢中で私は泣声を立てながら、

「助けてくれえ」

といって砂浜を気狂いのように駆けずり廻りました。見るとMは遙か⑤むこうの方で私と同じようなことをしています。私は駆けずりまわりながらも妹の方を見ることを忘れはしませんでした。波打際から随分遠い所に、波に隠れたり現われたりして、可哀そうな妹の頭だけが見えていました。

浜には船もいません、漁夫もいません。その時になって私は⑥また水の中に飛び込んで行きたいような心持ちになりました。大事な妹を置きっぱなしにして来たのがたまらなく悲しくなりました。

問一 ―― ①とありますが、どのような声ですか。

ア 自分の出せる中で一番大きな声。

イ ほぼ聞こえないような小さな声。

ウ 真剣さがあまり感じられない声。

問二 ―― ②とありますが、なぜ「私を睨みつけるように見え」るのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 水に沈まないよう必死にもがき苦しんでいるから。

イ 自分だけで行ってしまった兄に腹を立てているから。

ウ Mのすがたを見失わないよう真剣に探しているから。

問三 ―― ③とありますが、どのような点が「ずるい」のですか。その内容を次のようにまとめました。空らんにあてはまる言葉を文中から探し、それぞれ一字で書きぬきなさい。

必死に助けを求める（ア）の方へは行かず、助けを呼ぶために早く（イ）につきた  
いと思っているが、本当のところは自分だけが助かりたいという気持ちがあった点。

問四 ―― ④とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア これでMも妹も助かったと思ったから。

イ やっと安全な場所にたどりついたから。

ウ 意外にも自分の泳ぎが上手だったから。

問五 ―― ⑤とありますが、どのようなことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 波に隠れたり現われたりしながら遊んでいること。

イ ほっと安心し命が助かったことを喜んでいること。

ウ 泣声をあげながら砂浜を駆けずり廻っていること。

問六 ―― ⑥とありますが、どのような「心持ち」ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア もう一度沖へ遊びに行きたいという好奇心。

イ 妹を助けに行くべきだったという後悔。

ウ 妹が助からないことが分かった悲しみ。

溺れかけた兄妹5

その時Mが遙かむこうから一人の若い男の袖そでを引ひっばつてこつちに走つて来ました。私はそれを見ると何もかも忘れてそつちの方に駈け出しました。若い男というのは、土地の者ではありません。しょうが、漁夫とも見えないような通りがかりの人で、肩かたに何か担になつていました。

「早く……早く行つて助けて下さい……あすこだ、あすこだ」

私は、涙を流し放題に流して、①地じだんだをふまないばかりに②せき立たてて、震える手をのばして妹の頭がちよっぴり水の上に浮うかんでいる方を指しました。

若い男は私の指す方を見定めていましたが、やがて手早く担おつていたものを砂の上に卸おろし、帯をくるくると解いて、衣物きものを一緒にその上におくと、ざぶりと波を切つて海の中にはいつて行つてくれました。

私はぶるぶる震えて泣きながら、両手の指をそろえて口の中へ押おしこんで、それをぎゅつと歯でかみしめながら、その男がどんだん沖の方に遠ざかつて行くのを見送りました。私の足がどんな所に立っているのだから、寒いのか、暑いのか、すこしも私には分りません。手足があるのだから、だかそれ分りませんでした。

抜手ぬきてを切つて行く若者の頭も段々小さくなりまして、妹との距へだたりが見る見る近よつて行きました。若者の身のまわりには白い泡がきらきらと光つて、③水を切つた手が濡ぬれたまま飛魚とびうおが飛ぶように海の上に現われたり隠れたりします。私はそんなことを一生懸命に見つめていました。

とうとう④若者の頭と妹の頭とが一つになりました。私は思わず指を口の中から放して、声を立てながら水の中にはいつてゆきました。けれども二人がこつちに来るののおそいことおそいこと。私はまた何なんの訳もなく砂の方に飛び上りました。そしてまた海の中にはいつて行きました。如何どうしてもじつとして待つていることが出来ないのです。

妹の頭は幾度いくども水の中に沈みました。時には沈み切りに沈んだのかと思うほど長く現われて来ませんでした。若者も如何かすると水の上には見えなくなりました。そうかと思うと、ぼこんと跳ね上るように高く水の上に現われ出ました。何んだか曲まが泳およぎでもしているのではないかと思われるほどでした。それでもそんなことをしている中うちに、二人は段々岸近くなつて来て、とうとうその顔までがはつきり見える位になりました。が、そこいらは打寄せる波が崩れるところなので、二人は⑤もろともに幾度も白い泡の渦うずまき巻の中に姿を隠しました。やがて若者は這はうにして波打際にたどりつきました。妹は⑥そんな浅あみに来ても若者におぶさりかかっています。私は有頂天うちようてんになつてそこまで飛んで行きました。

問一 ― ①とありますが、「地だんだをふむ」とはどういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 両足を激しく踏み鳴らすこと。

イ 地面がだんだん増えること。

ウ 地面に立っていられないこと。

問二 ― ②とありますが、「せき立てる」とはどういう意味ですか。もっともふさわしくないものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア せかす    イ せきが出る    ウ いそがせる

問三 ― ③とありますが、だれの手ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア M    イ 妹    ウ 若者

問四 ― ④とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 若者が妹のところにたどりつき、妹の体を支えたということ。

イ 遠くにいたので若者と妹の見分けがつかなくなったということ。

ウ 強い波にもまれて若者の頭と妹の頭がぶつかったということ。

問五 ― ⑤とありますが、どういう意味ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア いっしょに    イ ふざけて    ウ あわてて

問六 ― ⑥とありますが、「そんな浅み」と同じ場所を表している言葉を文中から探し、三字で書きぬきなさい。

飛んで行って見て驚いたのは若者の姿でした。①せわしく深く息をついて、体はつかれ切ったようにゆるんでへたへたになっていました。妹は私が近づいたのを見ると夢中で飛んで来ましたがふっと思いかえしたように私をよけて砂山の方を向いて駆け出しました。その時私は妹が私を恨んでいるのだなと気がついて、それは無理のないことだと思つと、この上なく淋しい気持ちになりました。

それにしても友達の本は何所に行ってしまったのだろうかと思つて、私は若者のそばに立ちながらあたりを見廻すと、遙かな砂山の所をお婆様を助けながら駆け下りて来るのでした。妹は早くもそれを見付けてそっちに行こうとしているのだとわかりました。

それで私は少し安心して、若者の肩に手をかけて何かいおうとすると、若者は②うるさそうに私の手を払いのけて、水の寄せたり引いたりする所に坐りこんだまま、いやな顔をして胸のあたりを撫でまわしています。私は何んだか言葉をかけるのさえたためらわれて黙つたまま突立つていました。

「まああなたがこの子を助けて下さいましたんですね。お礼の申しようも御座んせん」  
 すぐそばで息をきり切つて③しみじみといわれるお婆様の声を私は聞きました。妹は頭からずぶ濡れになったままで泣きじゃくりをしながらお婆様にぴったり抱かれていました。

私たち三人は濡れたままで、衣物やタオルを小脇に抱えてお婆様と一緒に家の方に帰りました。若者はようやく立上つて体を拭いて行つてしまおうとするのをお婆様が④たつて頼んだので、黙つたまま私たちのあとから跟いて来ました。

家に着くともう妹のために⑤床がとつてありました。妹は寝衣に着かえて臥かきつけられると、まるで夢中になってしまつて、熱を出して木の葉のようにふるえ始めました。お婆様は気丈な方で甲斐々々しく世話をすますと、若者に向つて心の底からお礼をいわれました。若者は挨拶の言葉も得いわれないような人で、唯黙つてうなずいてばかりいました。お婆様はようやくのことその人の住っている所だけを聞き出すことが出来ました。若者は麦湯を飲みながら、妹の方を心配そうに見てお辞儀を二、三度して帰つて行つてしまいました。

問一 ――①とありますが、どういう意味ですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 世話をしながら    イ 落ち着きなく何度も    ウ 元気いっぱい

問二 ――②とありますが、どういう意味ですか。もっともふさわしくないものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア やかましそうに    イ わずらわしそうに    ウ うっとうしい様子で

問三 ――③とありますが、このときの「お婆様」の気持ちとしてふさわしいものをア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 感謝    イ 悲しみ    ウ 驚き    エ 安堵<sup>ど</sup>    オ とまどい

問四 ――④とありますが、どのように「頼んだ」のですか。もっともふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 立ち上がって頼んだ。  
イ 土下座をして頼んだ。  
ウ どうしてもと頼んだ。

問五 ――⑤とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 床がきれいにしてあったということ。  
イ ふとんがしいてあったということ。  
ウ 入院の準備がしてあったということ。

問六 この場面から読み取れる「若者」の性格として、もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

ア 挨拶もまともにできないほど無愛想で、人づきあいが苦手である。  
イ 人の命を救ったことを誇りに思っており、ほめられたい気持ちが強い。  
ウ 無口で遠慮がちだが、見知らぬ他人を気づかうことのできる優しさがある。

溺れかけた兄妹7

「Mさんが駆けこんで来なすって、お前たちのことをいいなすった時には、私は①眼がくらむようだったよ。おとうさんやお母さんから頼まれていて、お前たちが死にでもしたら、私は生きてはいられないから一緒に死ぬつもりであの砂山をお前、Mさんより早く駆け上りました。でもあの人が通り合せたお蔭で助かりはしたもののこわいことだったねえ、もうもう②気をつけておくれでないとほんに困りますよ」

お婆様はやがて③きつとなつて私を前にすえてこう仰有いました。日頃はやさしいお婆様でしたが、その時の言葉には私は身も心も④すくんでしまいました。少しの間でも自分一人が助かりたいと思った私は、心の中をそこら中から針でつかれるようでした。私は⑤泣くにも泣かれないでかたくなつたままちんとお婆様の前に下を向いて坐りつづけていました。しんしんと暑い日が縁の向うの砂に照りつけていました。

若者の所へはお婆様が自分で御礼に行かれました。そして何か御礼の心でお婆様が行かれたものをその人は何んといつても受取らなかつたそうです。

それから五、六年の間はその若者のいる所は知れていましたが、今は何処にどうしているのかわかりません。私たちのいいお婆様はもうこの世にはおいでになりません。私の友達のMは妙なことから人に殺されて死んでしまいました。妹と私（6）が今でも生き残っています。その時の話を妹にするたびに、あの時（6）は兄さんを心から恨めしく思ったと妹はいつでもいいいます。波が高まると妹の姿が見えなくなつたその時の事を思うと、今でも私の胸は動悸がして、空恐ろしい気持ちになります。

問一 ― ①とありますが、どういうことですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア 日差しがあまりにもまぶしくて目がくらくらしたということ。
- イ ショックを受けてどうしたらいいか分からなかったということ。
- ウ ひどくびつくりしたので思わず目をこすってしまったということ。

問二 ― ②とありますが、これを言いかえた表現としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア 気をつけてくれないと本当に困りますよ。
- イ 気をつけていても遅れたら本当に困りますよ。
- ウ 気をつけて送ってくれないと本当に困りますよ。

問三 ― ③とありますが、このとき「お婆様」はどうなったのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア きっと許してくれるような優しい顔になった。
- イ 「私」を強くにらみつけるような表情になった。
- ウ 倒れそうなほどつかれきった様子になった。

問四 ― ④とありますが、このとき「私」はどうしていたのですか。もっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア 話を聞けないほどつかれていた。
- イ 怖くて動けなくなってしまった。
- ウ もう安心だと思って喜んでいた。

問五 ― ⑤とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア これまでさんざん泣いたので涙がかれてしまったから。
- イ これ以上泣くともっとお婆様を心配させてしまうから。
- ウ 自分だけ助かろうとした罪悪感でいっぱいだったから。

問六 (6)にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア ばかり
- イ さえ
- ウ くらい

解答

1

問一 都

問二 ア

問三 秋

問四 ウ

問五 ア

問六 M・妹

2

問一 イ

問二 ウ

問三 イ

問四 ア

問五 M

問六 妹

3

問一 ①イ  
②ア  
③エ

問二 ア

問三 イ

問四 ウ

問五 ウ

問六 ア

4

問一 ア

問二 ア

問三 ア妹  
イ岸

問四 イ

問五 ウ

問六 イ

5

問一 ア

問二 イ

問三 ウ

問四 ア

問五 ア

問六 波打際

6

問一 イ

問二 ア

問三 アエ

問四 ウ

問五 イ

問六 ウ

7

問一 イ

問二 ア

問三 イ

問四 イ

問五 ウ

問六 ア

問三 妹の手と考えることもできそうですが、

直後に「飛魚が飛ぶように海の上に現われたり隠れたり」とあるので、溺れている妹と考えるよりは、力強く泳いでいる若者と考える方が自然でしょう。

2  
問四 あまり聞きなれない表現ですが、内容

6

から判断しましょう。直後に「少し怖そ  
うな声で」とあるので、イとウはあては  
まりません。

問二 「うるさい」には、「音がやかましい」  
という意味のほか「うつつとうしい・わず  
らわしい」という意味もあります。

3

問六 最後の段落に、「挨拶の言葉も得いわな

問一 ①は「くのに、くだが」、②は「くする  
のと同時に」③は「く全員、くとも」と  
いう意味です。

いような人」とあるのでアと迷いそうで  
すが、その後に、お婆様が若者の住所を  
「ようやくのことで」聞き出せたとある  
こと、また、一つ前の段落にも、若者が

問六 直後に、それぞれの年齢と泳ぎのレベ  
ルが書かれています。Mはともかく、私  
と妹は泳ぎがそれほどうまくないことが  
わかります。つまり、溺れないためには  
泳げるだけ泳がなければならぬ状況で、  
その力が無いということになります。

立ち去ろうとしたのでお婆様が頼んで家  
までついてきてもらったことから、若者  
は遠慮深いことがわかります。  
さらに、最後の一行では「妹の方を心配  
そうに見て」という表現があり、助かつ  
た妹を気づかっていることもわかります。

4

問二 イと迷うかもしれませんが、妹は私を

7

睨みつける「ように見え」ているのです  
から、本当に睨んでいるわけではありません  
せん。

問一 「目がくらむ」とは、驚きやショック  
で目まいがするように感じる、正常な判  
断ができなくなるという意味です。

問四 直前に、「水が膝の所位しかない所まで  
泳いで来ていた」とあります。水が膝の  
ところまでしかなければ、安全と言える  
でしょう。

問五 直前に、「少しの間でも自分一人が助か  
りたいと思った私は、心の中をそこら中  
から針でつかれるようでした」とありま  
す。「自分一人が助かりたいと思った」こ  
とで、「針でつかれるよう」に感じた気持  
ちは「罪悪感」と言えるでしょう。